

船舶事故調査報告書

令和6年10月2日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	旅客負傷
発生日時	令和5年6月3日 13時05分ごろ
発生場所	北海道稚内市野寒布岬南西方沖 稚内灯台から真方位245° 4.6海里付近 (概位 北緯45°25.1′ 東経141°32.8′)
事故の概要	旅客フェリーサイプリア宗谷は、航行中、船体が動揺した際、旅客が転倒して負傷した。
事故調査の経過	令和5年6月26日、主管調査官（函館事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	旅客フェリー サイプリア宗谷、3,555トン 140633、ハートランドフェリー株式会社（A社）
乗組員等に関する情報	船長、三級（航海） 旅客A
負傷者	軽傷 1人（旅客A）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北東、風力 3、視界 良好 海象：波高 約2m
事故の経過	<p>本船は、船長ほか14人が乗り組み、旅客44人を乗せ、車両15台を積載し、北海道稚内市稚内港に向け、北海道<small>おしどまり</small>泊町鴛泊港を出航した。</p> <p>本船は、北海道稚内港に向け、フィンスタビライザーを使用し、約18ノットの対地速力で、野寒布岬南西方沖を北東進中、船内の売店にいた客室係の乗組員が、「バタン」という音を聞き、船首部に位置する2等客室（カーペット席）に駆けつけたところ、頭部から出血した状態の旅客Aが床に座っていた。</p> <p>旅客Aは、船体動揺の影響が少ない1等客室まで担架で運ばれ、乗組員によって止血などの応急措置を施され、稚内港到着後、家族の車で稚内市内の病院に行き、左側頭部裂創と診断された。</p> <p>旅客Aは受傷時の記憶がなく、また、旅客Aが負傷したところを目撃した者はいなかった。</p> <p>船長は、航行中に船体動揺が予想される場合、ふだんから船内放送によって旅客に対する注意喚起を行っており、本事故当時も「航海中は船体が動揺しますので移動の際には壁や手すりなどをご利用になり、足元には十分お気を付けください」との船内放送を、離岸前に2回、航行中も複数回行っていた。</p> <p>船長は、旅客Aが、床から立ち上がる際、船体の動揺で転倒し、客</p>

	室内の構造物に頭部を打ったのではないかと本事故後に思った。
分析	<p>本船が、野寒布岬南西方沖を北東進中、風波により船体動揺がある状況下、旅客Aが、姿勢を崩して転倒したことから、客室内の構造物に頭部を打って負傷したものと考えられる。</p> <p>旅客Aに受傷時の記憶がなく、また、旅客Aが負傷したところを目撃した者がいなかったことから、負傷するに至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、野寒布岬南西方沖を北東進中、風波により船体動揺がある状況下、旅客Aが、姿勢を崩して転倒したため、客室内の構造物に頭部を打ったことにより発生したものと考えられるが、負傷するに至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
再発防止策	<p>A社は、本事故後、船内放送の徹底及び巡視の強化によって再発防止を図ることとした。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェリーの船長は、航行中、風波により船体が動揺する場合、旅客に対する注意喚起を適時適切に行い、必要があれば、船内での移動を控えるよう呼び掛けること、又は制限することが望ましい。